



当校 HP の QR
コードです。

進路だより

揖斐特別支援学校

キャリア支援部 第2号



～ 未来へはばたくみなさんへ ～

令和8年度 6月発行

高等部のみなさん、現場実習・校内作業実習お疲れ様でした。6月5日（金）に高等部で現場実習激励会を行い、実習に向け生徒一人一人が決意を述べ、気持ちを高めて、2週間「現場実習と校内作業実習」に臨みました。1年生は、初めて2週間の校内作業実習に臨み、各自で決めた目標を達成できるように、長時間の作業に根気強く取り組みました。2年生は、初めて現場実習に臨み、学校とは異なった環境の中で、実際の職場や施設等で社会生活を経験しました。3年生は、卒業後の進路決定につなげるために、やりがいをもって力いっぱい実習に臨みました。今回の実習を通して、一人一人が新しい気付きと課題を見つけることができました。先月末、京都市立伏見工業高等学校（現・京都市立京都工学院高等学校）ラグビー部元監督の山口良治さんが亡くなりました。当時の伏見工業は、ラグビー無名校でした。すさんでいた生徒たちに山口先生は、率直な感情を情熱的に伝え、「泣き虫先生」と呼ばれました。就任7年目に全国高校大会で初優勝し、テレビドラマ「スクール☆ウォーズ」のモデルにもなりました。山口先生の有名な言葉に『信は力なり』があります。“自分や仲間を信じる想いが、無限の力を生む”という意味です。皆さんの今後のさらなる成長を信じています!!

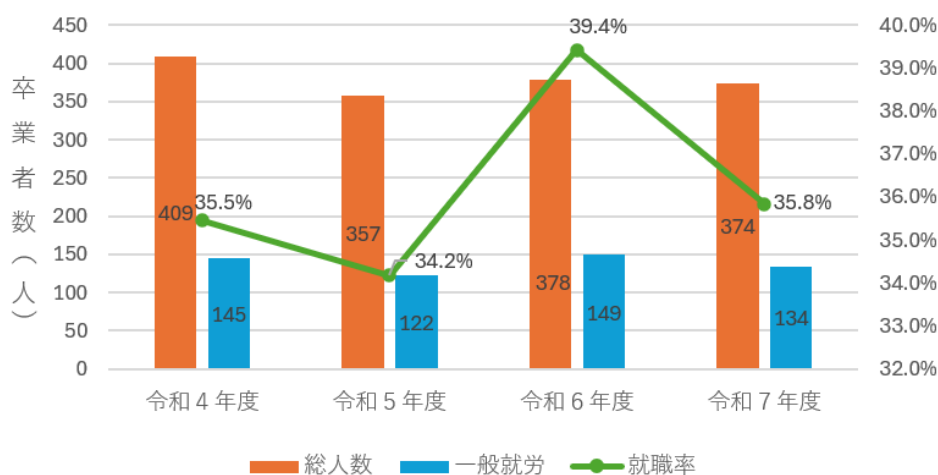
★令和7年度の県内の高等特別支援学校・特別支援学校高等部卒業生の進路状況についてお知らせします。【全卒業生 374人の進路内訳】

大学等 進学	特別支援学校 専攻科進学	専修学校・職業 訓練校等進学	一般就労	福祉就労	在宅
1人	0人	0人	134人	227人	12人

※当校の高等部進路状況：卒業生11人のうち、一般就労3人、福祉就労4人、未定4人です。

【在宅でカウント】

高等特支・特別支援学校卒業者と就職率の推移



過去4年間の就職率の推移を見ると、35%程度であることが分かる。

法定雇用率は上がってきている（今年の7月1日から、現在の2.5%から2.7%へと引き上げ）ため、企業の方も雇用率を意識しながらも、現場実習を通して、実習生が企業の求める人材であるかを、しっかり見極めていると思われる。

福祉就労（通所・入所者）の割合は、令和4年度59.1%、令和5年度59.4%、令和6年度56.6%、令和7年度60.7%でした。

★令和7年度 県内の特別支援学校中学部の卒業生数と進路内訳

卒業生数	高等学校進学	特別支援学校 高等部進学	施設入所等	在宅者数
169人	1人	166人	1人	1人

※当校の中学部進路状況：卒業生4人のうち、当校高等部へ進学4人です。

～ 一般就労をする際の「一般雇用」と「障がい者雇用」の違い ～

※下記の表は、岐阜県若者サポートステーション2025年保護者セミナー「障害診断があったほうが就職しやすい？」資料を参照しています。

	一般雇用	障がい者雇用
採用時	<ul style="list-style-type: none"> ○いわゆる通常の求人になるため、多様な職種・業種から選べる。 ○給与や待遇も幅広い。 ○人気の職種や業種は競争率が高く、採用が難しい。 ○面接などで配慮をしてもらえないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者手帳を所持している者だけが応募可能。 ○仕事内容は一般よりも限定的。 ○ある程度の規模の企業の求人になるため、福利厚生やサポート体制が整っている。 ○面接時等に配慮があることが多い。
就職後	<ul style="list-style-type: none"> ○苦手なことに対して特に配慮はなく、できていないことに対し指摘を受ける可能性が高い。 ○問題なく業務遂行をしていれば、昇給や昇格、昇進などがある。 ○丁寧に仕事を教えてもらえる環境はあまり期待できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○苦手なことがあることが前提のため、特性に合わせて仕事内容を配慮してもらえる。 ○その人が無理なく働ける人員配置が優先され、昇給や昇格などは、その人の努力・企業の考え方次第。 ○仕事は通常よりも丁寧に教えてもらえ、外部の支援も受けることができる。

※特例子会社とは

障がい者雇用のために特別に配慮した小会社。**障害者手帳を所持している人が対象**。配慮を得やすいが、仕事内容が限られる。

当校から一般就労する場合、原則「障がい者雇用」になります。そのため、3年次の夏季休業日にハローワーク揖斐にて職業相談を行い、「西濃障がい者就業・生活支援センター」の支援員とも面談を行います。10月の最後の現場実習には、「西濃障がい者就業・生活支援センター」の支援員も当校の職員と一緒に巡回し、就労に向けサポート準備を進めていきます。入社前の3月には、就労先の企業で移行支援会議を実施します。会議の参加者は、企業の担当者、保護者と生徒、西濃障がい者就業・生活支援センター職員、担任です。就労してからも定期的に巡回をし、みなさんが安心して長く働くことができるようにサポートしてくれます。